

女性活躍推進セミナー・ワークショップでの意見等

【1班】

- 女性として特によくできる場所としては、きめ細かい観点とか着眼点を持つての整理、書類作成や設計、現場監督等。女性の特性を生かすような作業を伸ばすことがポイントとしては大きいのではないかと。
- 災害時の県外等への応援、出張、出向、その他厳しい環境での現場作業とか力仕事は、なかなか難しい。
- 災害現場等で、ICTやドローン等の新技術を駆使すれば、女性も（仕事を）続けていくことができるのではないかと。

【2班】

- 労働環境がそもそも暑い、寒い。休暇、週休2日頑張ろうと言っても、なかなか工期が難しい等の現状。
- 女性は、現場に出れば出たで気をつかわれる。
- 現場に出ると汗かいたりして、見た目も気になって大変。
- 女性に頼ってほしい。女性がやっぱり現場に来ると和む。そういうところで、少しずつ何かを解決していくことができれば・・・。
- そもそも建設業に女子がいない。山陰は、女性が就職で出ていく流出県だと思う。まず、それを引きとめる、呼び戻すことが大切。
- 島根と鳥取自体に魅力を感じて戻ってくれるような県になるといい。

【3班】

- 女性は、トイレに入られる姿とか見られたくない。その一方で、自分が1人だけトイレ使うためにわざわざ女性用のトイレ使うこともなかなか言い出しにくい、きちんと言ったほうが良いとの意見。要望が少なければそれで良いと判断されてしまう。
- 一番大きな問題は、出産・育児。特に育児の問題。子どもが小さいとき、「熱出したので迎えに来て」というケースはよくある。大きな部屋で複数で仕事をしていれば、少し抜けたら等の対応が可能だが、1人で現場をやっているときは非常に難しい問題になる。ダブルキャストというか、1つのポジションを2人で仕事をして、それでまかなえるような仕組みを会社の中につくるしかない。

【4班】

- 現場での問題や家庭の相談等、雑談でもいいから話しやすい環境づくりが大切。
- 女性が働きやすい会社は、絶対男性も働きやすいと思う。

【5班】

- この業界では日給月給のところが多い。そこを月給制にしないと、休みも増やせないということで、その改善が必要。
- 子育ての時期に、短い単位での有休を取得したいとき、現場担当者はなかなか難しい。代替者を会社でカバーする等のアイデアを考える必要がある。
- 建設業は男中心の社会だが、昔のように3Kというイメージは、今はあまり感じない。

【6班】

- 女性にはできないというような男性の考えが残っている。
- 現場に行くと「女性？」というような意識がまだ残っている。というようなこと。
- 女性だからということで、逆に気づかいをされることがある。もっと平等に扱ってほしい。
- 最近では、セクハラを気にして、すごく会話がぎこちなくなっている。
- 休暇の制度等、会社としては変わってきているところも多いと思うが、一部の会社では理解が少ない、進んでいないところもまだある。
- 仕事を細分化して行って、得意分野を生かしていくと必要なのではないか。

【7班】

- 古い慣習とか女性には無理だとか、男性の古い考え方に問題があるのではないか。
- 女性は力仕事に苦手ということは分かるが、それ以外にもできる女性ならではないか。
- 仕事と家庭の両立の点で、早く現場から帰るのが難しい中、家族に理解されなかったりする家庭の問題等も働きにくい原因ではないか。
- リタイアした人材が、再就業という形で建設業に入ってもらえるシステムの構築が必要。
- 保育園の併設等。業界で、東・中・西部に保育園を1ずつ設置する等のアイデア。

【8班】

- 現場に1人女性がいただけで雰囲気が変わることもある。
- 女性ばかり仕事のレベルが上がると、男性からも不満が出る。同じレベル、平等にするということを進めれば良い。
- 時短勤務に理解が出てくると、女性が働きやすくなる。
- 女性ができることとできないことに理解がない人がある。人によって違うが、「これぐらいの重さなら持てるだろう」とか「こういうことだったらできるのでは」等、ある程度の理解を深めることが必要。

※ 講師講評

- 人を育てるとき、親が崖から子どもを突き落とすとか、何か旅させるというふうには、男女関係なく、厳しく育てることができるようにならないといけない。

- 男の優しさとか包容力というものがある。その優しさとか包容力を、少し深めてもらって、やり方を少し変えていく必要がある。

- 「ダブルキャスト」について、私は「ワークシェアリング」という言葉を使っている。子育ては、これまで、女性の役割、仕事のように思われているが、介護は、自分の親は自分がするという考えが圧倒的に多い。男性も女性も一緒。まさに、男性も女性もダブルキャスト。ここはスタンダードになってほしい。

- 話しやすい環境について。サッカーなでしこジャパンの佐々木監督の世界一の女性チーム、女子チームをつくった秘訣、男性としての心構えを3つ。
 - ・ とにかく清潔であること。
 - ・ おもしろいこと。親父ギャグを連発していたとき、一番成績が良かった。とにかくおもしろい、ユニークであること。
 - ・ プライベートなこともきめ細かく把握していること（それを口に出すか出さないかは別として）。色々な人からの情報を掴み、最高のパフォーマンスになるよう、その人とコミュニケーションをとる。

- 古い習慣、古い男の人は、マインドリセット、イノベーションが必要だが、実は女性も同じ。女性活躍を妨げているのは、実は女性だったりもする。先輩女性の皆さんが、いかに新しい時代を本当につくり出そうとするのか、女性のためだけじゃなくて、若い人、もう一回働こうとしている人、高齢者や外国人たちと古い習慣の間に立って、古いところにどう風穴をあけるか、どう踏ん張っていくか、先輩の女性の力が今問われている。